

宇都宮市立平石北小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか、起きていますか」等の基本的な生活習慣に関する質問について、肯定的割合は約80%を超えており、ほとんどの児童が規則正しい生活をしていることが分かる。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問について、肯定的割合は100%である。今後も、道徳やいじめゼロ集会等の場を活用し、いじめは絶対にいけないことだという意識をもち続けられるようにしていく。
- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」の質問について、肯定的割合は約94%である。今後も一つ一つの活動における振り返りの時間を大切に、最後まで粘り強く取り組むことの重要性について理解を深めていく。
- 「自分にはよいところがあると思いますか」の質問について、肯定的割合は約66%で、栃木県や全国の割合と比較しても低い。積極的に児童の頑張りを認めたり、友達同士でお互いのよさを認め合ったりすることにより、一人一人が自己有用感をもてるようにする。
- 「携帯電話やスマートフォン、テレビを見る時間やゲームをする時間」に関する質問について、ルールづくりが十分でない児童も見られるので、学級懇談会や学年だより等で保護者に啓発していく。ノースマホデーの取組みも活用していき、意識向上を図っていく。
- 「家で学校の宿題をしていますか」の質問について、肯定的割合は97%である。しかし、「自分で計画を立てて勉強していますか」について、肯定的割合は約57%である。また、「家で、学校の授業の予習をしていますか」の質問について、肯定的割合は約45%、「家で、学校の授業の復習をしていますか」の質問について、肯定的割合は約63%である。児童は決められた宿題には取り組むことはできるが、自ら課題を設定して勉強したり、予習・復習をしたりすることがやや難しい傾向が見られる。改めて、自主学習の内容・方法を確認し、保護者にも協力を啓発することで、改善を図っていく。

宇都宮市立平石北小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
めあての提示と振り返りの場の設定	授業で目標を示したり、授業の最後に振り返りの時間を設けたりする。	「5年生までに受けた授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか」に対する本校の肯定割合は81.8%で国の平均を約6ポイント、県の平均を11ポイント下回っている。また、「5年生までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」に対する本校の肯定的割合は、63.6%で国や平均を約13ポイント、県の平均を17ポイント下回っている。
言語活動の充実	自分の考えを発表したり、友達考えに触れたりして、互いに練り合い高め合う場を設定する。	「5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」に対する肯定的回答の割合は、81.9%で国の平均を約3ポイント、県の平均を約6ポイント下回っている。
学校図書館教育の推進	図書館利用指導計画のもと、授業中の図書室の活用を推進する。また、読書タイムや読書週間の充実を図り、司書や読み聞かせボランティアとの連携を図る。	「読書は好きですか」という質問に対する肯定的回答の割合は、84.8%で国の平均を約11ポイント、県の平均を約8ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語において国語A(知識)の「書く能力」が市は約4ポイント、国は3ポイント平均正答率を下回っている。一方、国語B(活用)の「書く能力」では、市で約3ポイント、国で約5ポイント上回っている。	自分の考えを書く活動の充実	各教科の授業の中で、自分の考えを書く活動を意図的に位置づける。学校生活の様々な場面での振り返りを短い文で書かせる等文章を書くことに慣れるようにする。